

月刊

定価 2,750 円 (本体 2,500 円)
『月刊スマートハウス』

Smart House

2023
Take a leap!

No.96

2023
FEBRUARY

供給不安乗り越え
成長軌道を飛び跳ねろ!
創・蓄・省エネ
関連商材マーケット

紆余曲折、都内大手ビルダー
太陽光設置義務化までの軌跡

新春 スマエネスター名鑑 Kanji of the year

表彰 省エネ大賞 ZEH住宅・関連製品サービスに荣誉

自社製断熱材で 売上高2.4億円

▶ 兼久

▶ 本社 / 兵庫県神戸市 ▶ 代表 / 田中 肇 ▶ 設立 / 1966年
▶ 従業員数 / 19名 ▶ 資本金 / 1,000万円 ▶ 売上高 / 約13.7億円(21年5月期)



(左)田中肇社長(右)本社営業 岸田仁志氏

兵 庫県神戸市で旭化成ヘーベルハウスの指定工事・建材店として、断熱材の施工、サイディング工事などを手掛ける兼久(田中肇社長)の21年度の売上高は2.1億円、今年度は2.4億円を見込んでおり資材高騰の中、堅調に売り上げを伸ばしている。その支えになっているのは、地場事業の売り上げシェアの40%を占めている、製造から施工を自社で行うオリジナルの断熱材だ。同社は元々、デコスの代理店を行っていた。「当時のデコスの副社長である小泉昭雄氏(現在は日本セルロースファイバー協会の代表取締役)が定年退職する際に、地産地消

の断熱材を共同開発する話をしていた」と田中社長は当時を振り返る。

2011年に同プロジェクトは開始し、兵庫県三木市にある自社工場で作成に取り掛かった。納得のいく物ができるまで、5年の歳月を要し、2016年に自社製のセルロースファイバー『comfibe』が完成した。20年に営業を採用し、それまでの既存顧客への「待ち」の営業だった同社は、新規、アフターフォローへの「攻め」の営業を行うことにより、提携社数も徐々に増え、現在までに50社以上の工務店で扱われ、提携社数は10社を超える。

『comfibe』は地元の古紙や新聞を再利用し、自社施工する営業エリアは2府4県に限定している。田中社長は「地産地消にこだわる理由は、開発を持ち掛けた小泉氏の想いと、自社施工を手掛けるため」と話す。またオーダーメイドも可能で、紙に使われるインクを抜いて作るなど、アレルギーに対応することもできるという。

材販としての拡大も視野に入れており、同社営業部の岸田氏は「自社製作の断熱材は営業ツールとしては強み。自社の断熱材を広めていきたい」とし、今後につ

いて田中社長は「自社工場での勉強会を行い、ほかの業者が施工しても安心して任せられる環境づくりを徹底していく」と展望を語った。



自社製セルロースファイバー『comfibe』

builder's vision

▶ あんじゅホーム

年間20棟限定 高性能で安心な家づくり

▶ あんじゅホーム

▶ 本社 / 兵庫県神戸市 ▶ 代表 / 深見 宗久 ▶ 設立 / 2001年
▶ 従業員数 / 17名 ▶ 年間供給棟数 / 約20棟 ▶ ZEH率 / 29%



深見 宗久 社長

年 間平均20棟限定で供給を行うあんじゅホーム(神戸市、深見宗久社長)は健康で安心して住める家を実現するため、断熱性能HEAT20 G1、UA値0.56を標準とした快適性にこだわる家づくりを行う工務店だ。「快適で健康に住める家を作るには、手間と時間がかかる。一つ一つ丁寧に作り上げるため、供給数を限定している」と深見社長は説明する。

兵庫県神戸市を中心に注文住宅を手掛ける同社だが、今年度は18棟見込みと更に供給数を調整している。理由として1棟に対する規模が大きくなっている点にある。

加えて太陽光などの設備導入が増加しており、21年度までは20%であったZEH率が今年度は30%を超えている。LIXIL TEPCOスマートパートナーズの『建て得』を今年から採用したことで、徐々に増えているという。2001年設立当時は供給数が1棟~5棟ベースだったが、深見社長が入社した03年にHP作成を自身で行い、認知してもらうことで受注数は05年度には2桁の19棟に伸ばした。

性能を見直したのは5年前。先代である深見社長の父がヒートショックにより倒れたことがきっかけだった。当時先代が住んでいた家

は12年前に建て替え、長期優良住宅ではあったが、今ほどの性能を持つ家ではなかった。深見社長は「父の件で見直す機会になった。住む人が安心して健康に過ごすことができる家を建てるのが工務店として重要なこと」と話した。現在、断熱等級5を基本とし、断熱材は日本製紙製のセルロースファイバーを壁105mm、屋根200mm、床にはデュボン・スタイロ製の『スタイロフォーム』を65mm使用し、窓には地域環境に合わせ、YKK AP製の『APW330』とLIXIL製『樹脂窓EW』を

使い分けている。

深見社長はこの経験から「今後は断熱等級6を基本とした注文住宅をメインに、リノベーションによる既築住宅の性能向上にも努めていきたい」と展望を語った。



健康と安心を届ける家